

何かを獲得した時、決まって何かを喪う。何かを喪ったとき、しかし場合は何かを獲得するわけではない。喪った時、必ず何かを得られるわけではないが、必ず何かを得ようと奮起し、得なければならぬ。そうでなければただの負け犬に成り下がるからだ。負けても何かを得たという結果が、過ちへの後悔をより深いものにし、次こそはという決意に成る。

難しいのは、傷を得ることが目的になってはいけないということだ。

× ×

そのようなことを話し終えると、電話越しに話していた友人はびたりと黙ってしまった。

「……？」

すこし待つも声が聞こえない。

「どうかした？」

尋ねるが返答もない。

「おい、……大丈夫？」

心配になってつい神妙になる。

電話が切れたわけでも大きな音が聞こえたわけでも甲高いブレーキ音が聞こえたわけでもないのでそう本気で心配したわけではないけど、脈絡なく返答が聞こえなくなったことには不安を覚えざるを得なかった。

もう一度、呼びかけようとしたところで、

「ふっ……ふふふっ」

我慢しきれなかったような、笑い声が聞こえ始めた。

ああ、よかった。

「あっはっははっ、ははははっははは……！」

それにしても笑い過ぎじゃないだろうか。ていうか、どこにそんな要素があった。

「なに、なんかおもしろかった？」

笑いの波が収まったタイミングで訊いた。

「いやー……うん、やっぱおもしろいなーって」

「大真面目な話だろ、さっきの」

真面目な話を笑われるのは良い気がしない。それも数少ない友達に、となるとやや傷つく。

「だってお前、そんな心理じみたことを銭湯からの帰り道でふと思いついたんだろ？」

「うん」

きれいな夕陽を見て、風に震えて、ふと思った。

「そんなのかな日常でそんなこと思わないだろ、フツー」

そう言われても、思ってしまった事は仕方がない。